



日本糖尿病協会公認
マスコットキャラクター
「マールくん」

公益社団法人 日本糖尿病協会
REPORT 2017
～あなたが主役です～

CONTENTS

TOP MESSAGE	1
日本糖尿病協会の活動について	2
日本糖尿病協会ならではの特長	3
活動アルバム	4
キーワードで見る2017年	6
事業一覧	14
日本糖尿病協会と連携する諸団体	16
日本全国に広がるネットワーク	18
日本糖尿病協会の会員	20
2018年度 日本糖尿病協会賞受賞者	22

TOP MESSAGE



日頃より日本糖尿病協会の活動にご理解とご協力を賜り、まことにありがとうございます。
日本糖尿病協会は、糖尿病啓発を行う公益社団法人として、日本の糖尿病対策に日々まい進しております。このほど、2017年度の活動をまとめた事業記録を作成いたしました。ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

2017年度は、私たちが掲げる4つの目標、「糖尿病の正しい知識の普及啓発」「患者さんご家族の糖尿病療養支援」「国民の健康増進に資する調査研究」「国際交流」をさらに深化させることを目指して、各事業のブラッシュアップに取り組んだ1年でした。会員の状況も、医療機関に設置する糖尿病友の会の会員は微減となったものの、本部会員は地域糖尿病療養指導士の有資格者の入会を受けて、大幅な増加となりました。また、協会活動に賛同いただくサポーターも、発足後4年で1万人を突破いたしました。皆さまのご支援に、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

さて、平成も30年となり、予備群もあわせた我が国の糖尿病患者数は2,000万人時代を迎えています。糖尿病に限らず、これからの日本の医療は、患者さんが主体となり、その意思に沿う治療や療養を選択していく時代になります。このような医療を展開するためには、患者さんも自らの病気を正しく理解し、適切な治療について医療者と相談ができる賢さが必要になりますし、医療者側には、個々の患者さんで異なる要望に応えられるだけの知識と、それを治療や療養指導に反映できるスキルが求められています。

日本糖尿病協会は、患者さんと医療者が手をとりあって糖尿病対策に取り組む団体として、これからも患者さん・医療者双方のニーズに耳を傾け、糖尿病にまつわる様々な社会的課題を解決していきたいと考えています。引き続き、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2018年5月
公益社団法人日本糖尿病協会 理事長

清野 裕

関西電力病院 総長
関西電力医学研究所 所長
京都大学 名誉教授
アジア糖尿病学会 理事長
日本病態栄養学会 理事長

日本糖尿病協会の活動について

日本糖尿病協会のステークホルダーは、患者さんはもとより、患者さんを支援する医療者、自治体、企業、市民など多岐に渡ります。そうした方々に向けて、以下の4つの目標を持って活動しています。



日本糖尿病協会ならではの特長

日本糖尿病協会は、患者さんと医療者、それに企業や健康に関心の高い市民が連携して、糖尿病撲滅を目指す団体です。医療者も医師・歯科医師をはじめ、看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士など幅広い職種が参加し、患者さんに良質な医療を提供するための取組みを行なっています。また患者さんやそのご家族が暮らす地域や職場にも呼びかけ、糖尿病の正しい知識と予防に関する啓発を実施しています。



日本糖尿病協会が発行する「療養グッズ」

日本糖尿病協会では、糖尿病関連企業の協賛により下記の療養グッズを発行。医療施設などを通じて無料で配布しています。



糖尿病連携手帳

検査値や治療内容、合併症の検査所見などを記録して携帯できる、自己管理のための手帳です。



自己管理ノート

血糖測定結果を1冊で1年分記録できるノート。複写式なので複写部分を主治医に渡すことができ便利です。



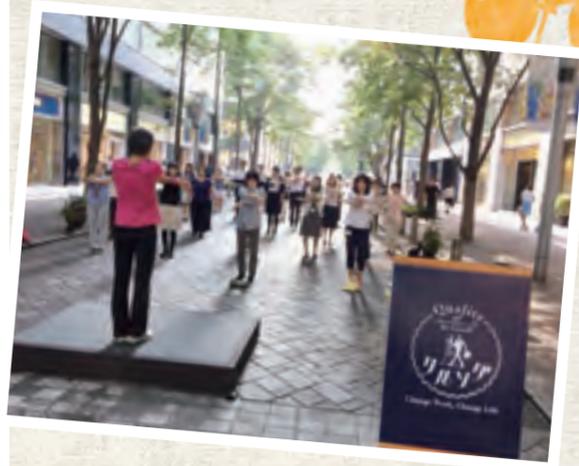
糖尿病患者用IDカード
(緊急連絡用カード)

低血糖や交通事故などの緊急時に、周囲に糖尿病であることを知らせ、適切な処置を促します。とくに薬物療法をされている方は、常に身につけていただきたいカードです。



英文カード

海外旅行などで役立つ英文カード。表紙には糖尿病患者であることが5か国語で書かれ、中面には治療内容や合併症の状況などが英語で記入できます。



活動アルバム 写真で見る 2017年の活動

日本糖尿病協会では、「普及啓発」「療養支援」「調査研究」「国際交流」の4つの目標を中心に、2017年もさまざまな事業を展開いたしました。実施した事業の詳細については、14-15ページをご覧ください。

2017年のシンボル：東京駅丸の内駅舎南北ドーム
撮影：株式会社ライティングプランナーズ アソシエーツ、金子俊男
協力：東日本旅客鉄道株式会社



ひとりでも多くの笑顔と出会うために、 笑顔の輪を広げるために

日本糖尿病協会では、一般の方々への糖尿病予防啓発、糖尿病を持つ患者さん・ご家族・予備群の方々への正しい知識の提供と療養支援、各種糖尿病調査研究、療養指導者の育成支援等、年間計画に基づき様々な活動を行っています。

ここでは、「結ぶ」「学ぶ」「広げる」「支える」「育てる」「報せる」の6つのキーワードを手がかりに、私たち日本糖尿病協会の活動の数々をご紹介します。

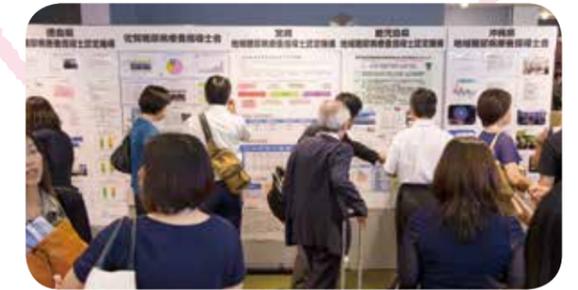


結ぶ

糖尿病に関わる人と人をつなぐ結びつける取組みを行っています。

CDE ネットワーク

地域糖尿病療養指導士 (CDEL) は、地域密着で療養支援を行うスペシャリストとして、ほぼすべての都道府県で認定されるようになりました。その数、約 21,700 人。日糖協は、CDEL 養成団体の支援策として、38 団体に 2,800 万円の補助金を支出しました。糖尿病の知識豊富な CDEL が増えることで、全国どこでも質の高い療養支援が行われることを目指しています。



ライオンズクラブとの連携

世界最大の奉仕団体「ライオンズクラブ国際協会」と日糖協がタッグを組んで、糖尿病啓発に取り組むことになりました。ライオンズクラブ国際協会は、その組織力を生かし、国内 12 万人の会員の奉仕アクティビティとして、市民に向けた糖尿病啓発事業を展開します。日糖協にとってもたいへん力強いパートナーで、今後の協働に期待が高まります。



第4回チャレンジ!糖尿病いきいきレシピコンテスト

今、若い人でも糖尿病は他人事ではなくなっています。日糖協は、学生を対象とするレシピコンテストを主催していますが、応募者は年々増加し、第4回は 55 の大学・専門学校から 387 レシピの応募がありました。入賞作品を掲載したレシピブックは大好評で、患者さんに配布したほか、糖尿病重症化予防に取り組む市町村での配布により、市民に向けた食事療法啓発で活躍しました。



糖尿病連携手帳&自己管理応援シール

糖尿病をもつ患者さんにいつも寄り添う糖尿病連携手帳。診療科、病院と診療所、保健指導と医療機関、医療と介護等々、糖尿病診療での様々な局面を結ぶツールとして、2017 年も 1,358,000 部を発行しました。また、患者さんの日々の自己管理を医療者が応援するためのシールも作り、糖尿病連携手帳に貼る取り組みも進めています。



「糖尿病ライフさかえ」と「DM Ensemble」

糖尿病の正しい知識はどこで得ればいいだろう…。迷ったときには日糖協の協会誌「糖尿病ライフさかえ」(月刊)を開いてみてください。その時々で注目される最新の医療情報や食事・運動療法のアイデアなどが患者さん向けにわかりやすく掲載されています。日糖協に入会すると会員特典として無償で読むことができます。(発行部数：10万部) 医療者向けには「DM Ensemble」(季刊)。糖尿病チーム医療に関わるあらゆる職種の方を対象に、ひとつのトピックを職種ごとの視点で切り取る編集方針が自慢です。(発行部数：5千部)



学ぶ

さまざまな媒体や学術集会を通して、糖尿病に対する理解を深める活動をしています。

歩いて学ぶ 糖尿病ウォークラリー

ウォークラリーは、各都道府県糖尿病協会とノボ ノルディスク ファーマ(株)の共催で25年間続いているイベントです。患者さんと医療者が糖尿病や運動療法にまつわるクイズに答えながら青空の下、4~5kmを歩きます。2017年は、新たにスロージョギングの導入、協賛企業の展示や、行政との協業なども加わり、参加者はさわやかな汗を流しました。



啓発・防災資料を自由にダウンロード

日糖協のホームページには、糖尿病の療養や勉強に役立つ資料が多数掲載されています。「災害時ハンドブック」「災害時サポートマニュアル」、インスリン治療に役立つ「インスリン自己注射ガイド」「インスリン製剤一覧」、就労者向け読み物「糖尿病の治療を放置した働き盛りの今」、など、どなたでもダウンロードすることができます。ぜひ、日本糖尿病協会のホームページを開いてみてください。



食事療法 DVD

見て、聞いて、考える、面白くて役に立つ糖尿病学習 DVD シリーズから、第3弾「食事を考える」を発行し、医療機関に提供しました。糖尿病だった(かもしれない)織田信長が現代にタイムスリップして、食事について「それくらいならできそう!」と納得し、継続して実践できそうなワンポイントを紹介し、動画と一緒に体を動かすコーナーもあり、盛りだくさんな内容です。糖尿病教室や医療施設の待合室でご活用ください。(大正富山医薬品(株)協力)



第5回日本糖尿病療養指導学術集会

2017年の療養指導学術集会(安西慶三会長、7/29-30)は「あなたの一歩が患者さん、施設、地域を変える」と題し、参加者が過去の学術集会で得た知見を現場で実践し、その成果を再び共有するという、ひとつ上の段階に引き上げることを目指したプログラムとなりました。参加した1486人は、新たな気づきや、組織や地域を動かす勇気を得て自らの施設に戻っていきました。



世界糖尿病デー・ブルーライトアップ

2017年は、JR東日本のご協力により、東京駅丸の内駅舎ドーム南北ドーム屋根のブルーライトアップをシンボルとして、全国200ヶ所のブルーライトアップが行われました。世界遺産に登録された静岡県・韮山反射炉や福岡県の太宰府天満宮なども初めてライトアップが行われ、糖尿病啓発に一役買っていました。



HbA1c 認知向上運動

糖尿病治療の重要な指標であるHbA1cを身近に感じてもらうイベントとして、2017年は11月12日に埼玉県内のショッピングセンターで開催しました。買い物中の家族連れや若者など、糖尿病に関心が薄い層を狙い、HbA1cの測定などを呼びかけた結果、約400人が参加。「子どものためにも健康に気をつけなければ」とわが身を振り返るお父さんの姿もありました。(サノフィ(株)協力)



「チームで考える!療養指導・支援のポイント」糖尿病学習支援 DVD

医療者向け学習 DVD も、2017年の「合併症編」で4巻目となりました。DVDでは、日頃の療養支援で出会う患者さんの事例をもとに、チームでディスカッションして最適な解を探します。一方通行の指導を、患者さんの気持ちを汲んだ支援に転換するには何が必要なのか、療養支援の初級者・ベテランそれぞれがご自身の答えを見つけられる DVD です。(アステラス製薬(株)協力)



糖尿病カンバセーション・マップ™

思いを言葉にすることで自分の気持ちを整理する。糖尿病カンバセーション・マップは、グループでの会話を通じて糖尿病の知識の定着を図り、前向きに治療に取り組む気持ちを育むための療養支援ツールです。日糖協は、患者さんの思いを交通整理するファシリテーター育成トレーニングを毎年開催。2017年は11回の講習に260人の医療スタッフが参加しました。(日本イーライリリー(株)協力)



広げる

少しでも多くの方へ。糖尿病の患者さんに役立つ情報を広げていきます。

クルソグプロジェクトとの連携

働き盛り世代に糖尿病予防の重要性をアピールするため、東京・大手町周辺の企業就労者を対象とする「クルソグプロジェクト」とともに、講演会や運動イベントを実施しました。中でも、11月14日世界糖尿病デーに実施したスロージョギングでは、80人の参加者が青いウェアを着て皇居を1周。健康づくりと糖尿病デー周知を兼ねた一石二鳥のイベントとなりました。



日本糖尿病協会は、
とてもたくさんの方々の
熱意と善意に
支えられています。

支える



インスリンメンター

日糖協が任命しているインスリンメンターは現在12人。1型糖尿病の患者さんで小児糖尿病キャンプ出身のヤングメンターと、インスリン治療のベテランのシニアメンターがいます。彼らは、キャンプや患者会で同じ病気の仲間を支援するほか、社会に向けて糖尿病の情報発信を行います。患者さんが自分の体験を語る言葉は、医療者の話とは異なる説得力があり、様々な場面で存在感を発揮しています。

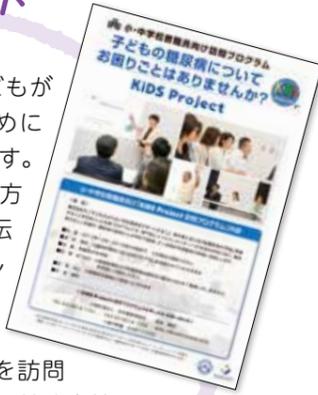
サポーター

ワンコインでできる社会貢献として日糖協がサポーターの募集を開始して4年。日糖協の小児糖尿病やアジア地域の糖尿病対策に共感してサポーター登録をしてくださった方は、10,606人に達しました。2017年から協働が始まったライオンズクラブでも積極的な働きかけがあり、全体の1割近くをライオンズのメンバーが占めています。皆さんの思いを大切にして、これからも適切な支援を届けて参ります。



KIDSプロジェクト

糖尿病をもつ子どもが健やかに成長するためには、学校の理解が不可欠です。初めて患児を受け持つ先生方に糖尿病の正しい知識をお伝えし、先生方の不安を解消してもらおうと、2017年から糖尿病専門医とインスリンメンターがペアになって学校を訪問するプログラムを、サノフィ株式会社とともに始めました。早速、各地の学校から問い合わせがあり、関心の高さがうかがえます。



医療者の入会

日糖協の会員は患者さんが多いと思われがちですが、現在、医師・歯科医師・メディカルスタッフといった医療者の入会が増加しています。特に、地域糖尿病療養指導士として活躍する方々が日糖協活動に積極的です。日糖協では、患者さんがどこにいても質の高い医療を受けることができるよう、こうした医療者の方々に活用いただく療養指導ツールの開発と普及に重点を置いています。



企業委員会

糖尿病関連の医薬品、医療機器、食品等の企業38社が、企業委員会を組織して、日糖協の公益活動にご協力いただいています。患者さんや医療者向けの教育資料の制作、新しい療養指導ツールの普及活動、イベントの共催だけでなく、医薬品や医療機器の適正使用の啓発などの分野でも、企業の垣根を超えた取組みが広がっています。



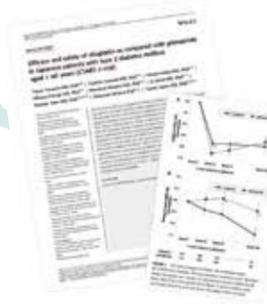
Team Diabetes Japan (TDJ)

2007年に発足したTDJは、10周年。マラソンを走るメンバーも発足当初の十数人から数百人規模になりました。今年も国内外のマラソン大会に200人が参加し、糖尿病があっても何でもできる「No Limit」を体現し、多くの患者さんがフルマラソンを完走しました。その姿は、同じ病気をもつ患者さんに勇気を与えるとともに、一病息災であるための治療継続の大切さも伝えています。



調査研究

日糖協は、糖尿病の予防・治療・患者教育に関するアンケート調査や、診療に係る臨床研究を行い、国民の健康増進に寄与しています。現在は、糖尿病薬剤の有効性に関する市販後調査4本を実施しており、そのうちのひとつ「START-J: 65才以上の高齢者2型糖尿病におけるシタグリプチンあるいはグリメピリドによる有効性および安全性に関する比較検討試験」の論文が、海外の権威ある学術誌「Diabetes, Obesity and Metabolism」に掲載されました。また、日本財団の助成を得て、小児糖尿病キャンプの効果に関する調査も実施しました。



糖尿病とおいしく生きようプロジェクト
～いきいきライフクッキング～

敬遠されがちな糖尿病の食事療法のイメージを覆し、適切な量と食べ方に配慮すれば美味しい食事が楽しめることを伝えるため、日糖協は、MSD(株)、(株)ホームメイドクッキングと共催で、糖尿病の勉強と調理実習を合わせた料理教室を実施しています。2017年は、20会場で患者さん342人が参加しました。普段の調理で役立つちょっとした工夫と食事療法の知識が得られると、皆さん大満足の様子でした。



小児糖尿病サマーキャンプ

日糖協のキャンプは毎年50ヶ所で開催され、正しい自己管理の知識を得るとともに、同じ病気を持つ友達や先輩との交流を通じて、ともにがんばる仲間を作ります。2017年は、1,124人の患児が5,050人のボランティアスタッフに支えられて楽しい思い出を作りました。また、キャンプへの2型糖尿病患児の受け入れも開始。幅広い小児糖尿病対策の舞台となっています。この活動には、日本歯科医師会と日本財団による社会貢献活動「TOOTH FAIRY」から多大なご支援をいただきました。ありがとうございます。



糖尿病療養指導カードシステム®

糖尿病療養指導カードシステムは、療養指導のトピックを79に分類したカードとそれに対応する指導リーフレットを使い、患者さんの治療内容や理解度に応じてカードを組み合わせて指導計画を作るツールです。2017年は、一層の普及を目指し、教育制度の見直しと講習会の受講条件緩和を行いました。18ヶ所で実施した講習会には914人が参加。また、療養指導学術集会でカードを用いた療養指導の実践報告が発表されるなど、医療現場での評価も進んでいます。(ノボノルディスクファーマ(株)協力)



様々な場所で
糖尿病への理解を
育てています。

育てる

報せる

糖尿病の患者さんに、
糖尿病をご存じない方へ、
もっと報せたいことが
あります。

全国糖尿病週間

世界糖尿病デーの11月14日を含む1週間は、全国糖尿病週間として、北海道から沖縄まで日本全国を結んで糖尿病の疾患啓発行事が行われます。2017年は、11月13日(月)から19日(日)まで「重症化予防」をテーマに実施しました。あなたの隣の人に糖尿病のことを知ってもらおう、という趣旨で講演会、血糖測定、医療相談、栄養相談など、都道府県の糖尿病協会主催の行事や病院単位の取り組みが行われ、約70,000人が参加しました。



LINE スタンプ

若い世代が糖尿病を発症すると、治療は長期にわたり、医療費も上昇します。「自分には関係ない」と糖尿病に無関心な若者層にアピールするため、日糖協はコミュニケーションアプリ「LINE」のスタンプを作成し、5月に発売しました。マールくんが糖尿病治療に関する様々な言葉をつぶやく40種類のスタンプは、患者さん同士のコミュニケーションに使えるだけでなく、医療者から患者さんへの応援メッセージとしても活用されています。



世界糖尿病デー 東京駅デジタル広告

2017年は東京駅がシンボルライトアップとなったことから、日糖協は、全国糖尿病週間にあわせて、公式マスコットキャラクターのマールくんを使ったキャンペーン広告を駅構内で展開しました。大正富山医薬品株式会社の協力のもと、丸の内側と八重洲側のデジタル広告画面で、マールくんが糖尿病の早期受診を訴えました。



facebook

若者から中高年まで利用が広がるfacebookは、ホームページにならぶ情報発信ツールです。日糖協の公式facebookは、7人の医療者からなるfacebookサポーターが、毎日治療の豆知識や料理レシピなどを発信し、多くのファンを獲得しています。玉石混交の情報が渦巻くネットの海で、日本糖尿病協会は正しい情報を伝える灯台の役目を果たします。



糖尿病医薬品・医療機器の適正使用にむけて

糖尿病患者さんに必要な薬剤や医療機器が正しく適切に使われることを願い、日糖協は関係する企業とともに、啓発活動を行っています。2017年は、注射剤の取り違いリスクの軽減を目指して、各社共通の製剤区分マークを作り、全社の製品への展開が完了しました。ほかにも、血糖自己測定機器の保守点検や、インスリン注射針などの在宅医療廃棄物の適正処理、検査時のインスリンポンプや持続血糖測定器の扱いなどについての啓発資料を作成しました。



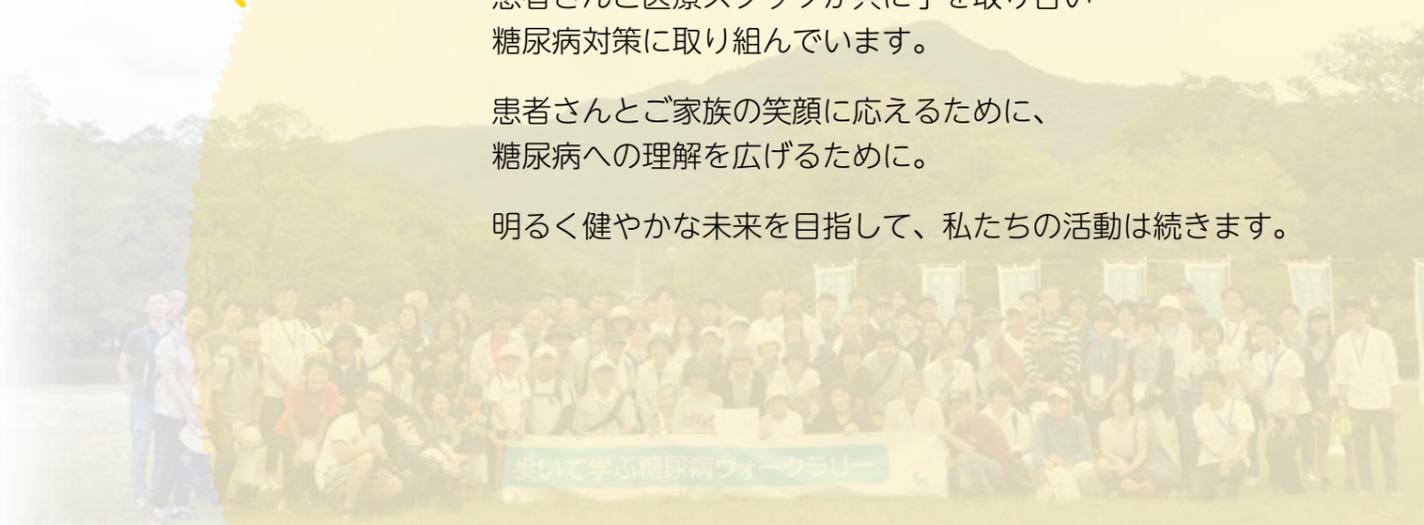
And to tomorrow

そして明日へ——

日本糖尿病協会では、患者さんと医療スタッフが共に手を取り合い糖尿病対策に取り組んでいます。

患者さんにご家族の笑顔に応えるために、糖尿病への理解を広げるために。

明るく健やかな未来を目指して、私たちの活動は続きます。



特集ページでご紹介した活動以外にも
様々な事業を実施しました

1 糖尿病の予防及び治療に関する正しい知識の普及啓発事業

【市民、患者向け】

1-1 「糖尿病ライフさかえ」の発行

1-2 糖尿病関連書籍の発行

「糖尿病食事療法のための食品交換表」、「糖尿病食事療法のための食品交換表活用編」、「糖尿病性腎症の食品交換表」、「糖尿病治療の手びき」を発行した。

1-3 全国糖尿病週間の実施

1-4 啓発イベントの実施

- 「糖尿病啓発フェスタ」（青森）11月26日
於：イオンモールつがる柏店
HbA1c測定、専門医によるトークショー、エクササイズ、クイズなどを実施し、約310人が参加した。
- 「糖尿病予防キャンペーン」（滋賀）10月15日
於：滋賀県立陶芸の森
糖尿病の講演、医療相談ブースを設置。約400人が参加した。日本糖尿病財団との共催は今回で終了した。

1-5 世界糖尿病デー関連のイベントの実施

1-6 Team Diabetes Japan

1-7 「歩いて学ぶウォークラリー」の実施

1-8 就労と治療の両立支援

糖尿病患者の就労と治療の両立を支援する目的で、日糖協 e ラーニングに産業保健スタッフ向けコンテンツを提供した。広報活動として、「勤労者医療フォーラム」（2月18日）を共催した。

1-9 介護支援者向け

日本糖尿病療養指導学会で、医療と介護の連携に関するプログラムを設けて、介護施設における糖尿病患者支援に対する理解を促進した。

1-10 啓発資料の作成

糖尿病教室などで使用することができる啓発資料を企業との協働で制作・監修した。
「食事を考える」Vol.1～3
大正富山医薬品株式会社
「糖尿病総論」「食事療法・運動療法」「薬物療法」「合併症」小冊子 武田薬品工業株式会社

1-11 KiDS プロジェクト

【医療者向け】

1-12 「DM Ensemble」の発行

1-13 登録医・療養指導医・歯科医師登録医制度の展開

日本糖尿病協会登録医・療養指導医制度並びに歯科医師登録医制度を推進し、専門医とかかりつけ医、歯科医師との連携強化を図った。登録医：

1,613人、療養指導医：2,711人、歯科医師登録医：3,289人となった。
登録医・療養指導医、歯科医師登録医の学習機会提供のため、eラーニングによる教育システムを構築した。

1-14 日糖協 CDE ネットワークの運営

第5回日本糖尿病療養指導学会で CDEL 団体の情報交換会を行った。

1-15 糖尿病カンパセーション・マップ™ を活用した療養指導の普及

1-16 糖尿病療養指導カードシステム® を活用した療養指導の普及

1-17 日本糖尿病療養指導学会の開催

登録医・療養指導医・歯科医師登録医・CDE を対象とした講習会 741 件について、資格更新対象講習会としての認定を行うとともに、医療従事者を対象とした糖尿病に関する適正医療の普及・啓発に向けた地域での活動を支援した。

1-19 医療者・介護支援者の連携強化

高齢の糖尿病患者の QOL 向上を目指し、糖尿病非専門医とケアマネジャー向けの勉強会や糖尿病テキストの作成を検討した。

1-20 医療者向け資料の作成・普及

2 糖尿病の予防及び治療に関する調査・研究事業

2-1 調査研究

- 「経口糖尿病治療薬（インクレチン関連薬を含む）投与に関する実態調査研究」（UNITE Study）論文の作業を行った。
- 「65歳以上の高齢者 2型糖尿病における、シタグリプチンあるいはグリメピリドによる有効性および安全性に関する比較検討試験」（START-J）医学雑誌 Diabetes, Obesity and Metabolism に論文が掲載された。
- 「インスリン製剤とシタグリプチン併用による有用性の検討 - 前向き観察研究 -」（I-UNITE Study）全症例の追跡期間が 12 月末に終了し、データ回収を行った。
- 「トホグリフロジンの安全性および有効性の検討 - 前向き観察研究 -」（AYUMI）症例登録が 2 月末に終了し、現時点での情報を第 61 回日本糖尿病学会年次学会に演説投稿した。

2-2 若手研究者に対する助成

糖尿病医療に関わる若手研究者を育成し、日糖協活動の担い手を創出することを目的に、臨床的・基礎的な研究を行う若手研究者 6 人に対し、研究費の助成を行った。

メディカルスタッフの療養指導に関する研究支援を目的に、新たな研究助成を設定し、7 人に対し研究費の助成を行った。

3 糖尿病の患者及び家族に対する療養支援事業

3-1 糖尿病友の会の活動支援

全国の糖尿病友の会の活動を活性化するためのリーフレット等を作成・配布し、会員の療養生活や会員相互の交流を支援した。

3-2 糖尿病療養に役立つグッズ、冊子類の発行

企業の協賛を得て、糖尿病連携手帳：1,358,000部、自己管理ノート：1,039,600部、CSII ノート 3,000部、糖尿病 ID カード：24,000部、英文カード：3,000部を製作し、医療機関、薬局等を通じて患者に配布した。
糖尿病連携手帳の提出を促進する卓上立札を制作し、医療機関に配布した。
糖尿病連携手帳活用策の一環として、自己管理を応援するシールを制作し、医療機関に提供した。

3-3 小児 1 型糖尿病対策

- 小児糖尿病キャンプの主催
- サマーキャンプカンファレンスの開催
小児糖尿病キャンプの標準化とレベルアップを図るため、第5回日本糖尿病療養指導学会時にキャンプ実施責任者会議と活動紹介ポスターによる情報共有を行った。
- 小児糖尿病キャンプの成果に関する調査
- 日本糖尿病学会、日本小児内分泌学会と合同で「1型糖尿病に関する移行期委員会」を設立し、移行期医療のあり方の検討を開始した。

3-4 小児 2 型糖尿病対策

3-5 インスリンメンター制度

4 糖尿病に関する海外関係団体との連携事業

4-1 IDF、IDF-WPR

IDF Congress（12月3-8日・アラブ首長国連邦アブダビ）に参加し、IDF 総会や WPR Council Meeting に出席した。各国の団体が展示を行う Global Village で日本での糖尿病対策と日糖協活動を紹介した。

4-2 IDF Taking Diabetes to Heart

IDF が実施する糖尿病と心血管疾患に関するアンケート調査に協力して、会員に回答協力を依頼した。

4-3 AASD

- 運営助成金を支出するとともに、事務局業務を支援した。
- 9th AASD Scientific Meeting（5月19-20日・名古屋）の開催を支援した。
- AASD が実施するアジア地域のフィットケア・栄

養プロジェクトへの協力をを行い、国内で実施したプロジェクト会議（5月21日、2018年2月24-25日）の運営を支援した。

5 その他本協会の目的を達成するために必要な事業

5-1 会員増強

入会促進策として、会員特典の資料（糖尿病小冊子、レシピブック等）を制作、配布した。

5-2 サポーター制度の周知

5-3 他団体との連携

- CDEJ および地域の CDE 組織
日本糖尿病療養指導士認定機構と糖尿病療養指導学会の共催等で連携した。
各地で組織されている「地域糖尿病療養指導士」養成団体と連携し、CDE ネットワークによる地域の CDE の育成協力と活動支援を行った。
- 日本歯科医師会
日本歯科医師会との合同事業である歯科医師登録医制度のさらなる充実を目指し、講習制度の柱となる e ラーニングの導入準備を行った。同時に制度の認知向上を目指し、名称を「登録歯科医」に改める準備を行った。
- 日本糖尿病対策推進会議
日本糖尿病対策推進会議の幹事団体として、推進会議加盟の各団体と連携して糖尿病性腎症重症化予防プログラムへの協力を行った。
- ライオンズクラブ国際協会

5-4 災害時危機管理対策

- 防災意識啓発ミニチラシ配布
防災意識啓発ミニチラシ配布の必要性を広報し、配布協力への依頼を行った。
- 日本糖尿病学会と連携して、災害時の糖尿病医療支援組織「DiaMAT」の設立を承認した。

5-5 広報事業

- プレスリリース配信、ホームページ、facebook、メールマガジンでの情報発信
- スマートフォンアプリ LINE で マールくんスタンプの頒布



5-6 糖尿病医薬品・医療機器等適正化

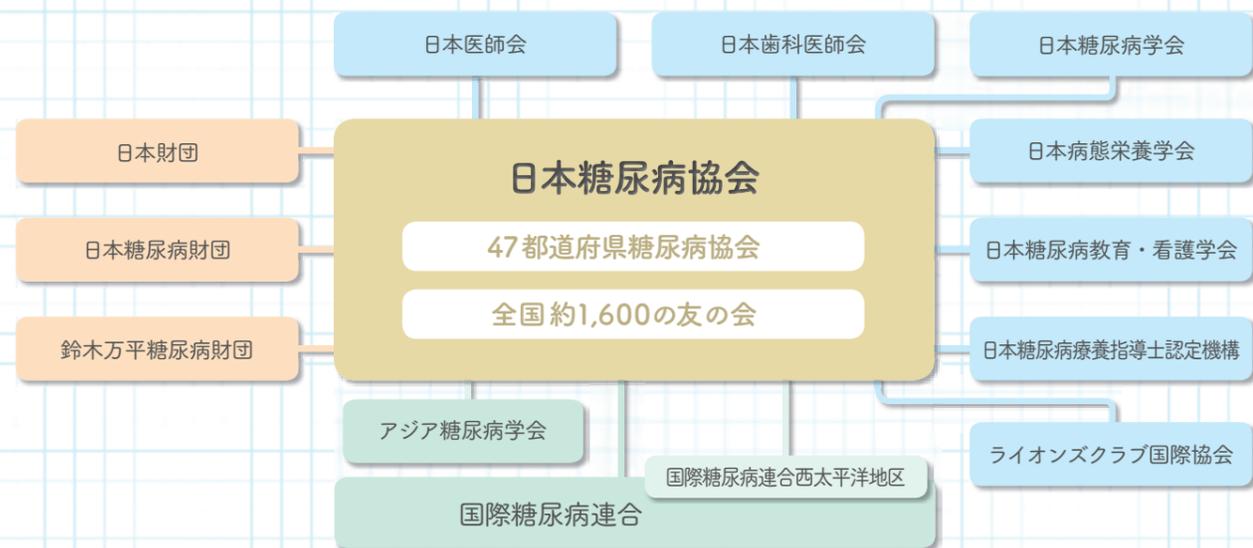
- 糖尿病用注射製剤の製剤区分表示
- 血糖自己測定器の保守点検
- 在宅医療廃棄物の適正処理
- 検査時のインスリンポンプ・持続血糖測定器等の取扱いの注意喚起

5-7 表彰事業

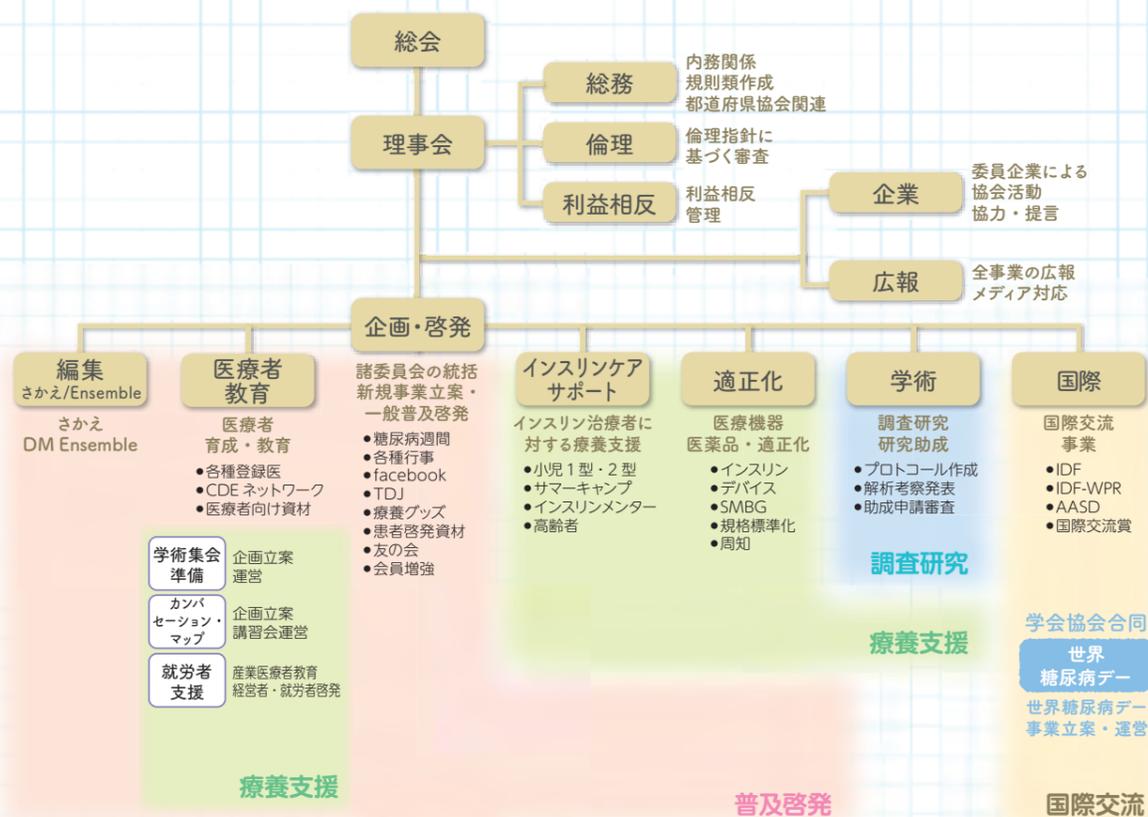
- 日本糖尿病協会賞のパラメデス賞、ウィリアム・カレン賞の表彰規則を改定した。
- アレテウス賞、ウィリアム・カレン賞、功労賞、立川俱子賞、療養指導士賞、小児糖尿病関連賞の選考と表彰を行った。

日本糖尿病協会と連携する諸団体

日本糖尿病協会は、47の都道府県糖尿病協会と連携して全国で啓発活動を展開しています。また日本糖尿病学会や日本医師会、日本歯科医師会など日本国内の主要な糖尿病関連団体と密接な関わりを持つほか、海外の諸団体とも交流・連携を行い、糖尿病の克服をめざしています。



日本糖尿病協会組織図



2017(平成29)年度 役員名簿

役職	氏名	役職	氏名	役職	氏名	役職	氏名
理事長	清野 裕	理事	三村 正裕	理事	平田 龍二	理事	土屋 陽子
業務執行理事	安西 慶三	理事	八幡 和明	理事	内湯 安子	理事	中村 直登
業務執行理事	大部 正代	理事	武田 純	理事	寺内 康夫	理事	堀田 饒
業務執行理事	鈴木 裕也	理事	中村 二郎	理事	荒岡 純孝	理事	松原 謙二
業務執行理事	中園 徳斗士	理事	稲垣 暢也	理事	伊藤 千賀子	理事	渡邊 倫久
業務執行理事	山田 祐一郎	理事	南條 輝志男	理事	太田 謙司	監事	長田 信也
理事	栗原 義夫	理事	権野 博	理事	遅野井 健	監事	岩本 安彦
理事	佐藤 譲	理事	武田 倬	理事	門脇 孝		
理事	渥美 義仁	理事	中村 慶子	理事	貴田岡 正史		
理事	戸所 文生	理事	布井 清秀	理事	高橋 一征		

2017(平成29)年度 決算書

正味財産増減計算書 平成29年4月1日から平成30年3月31日まで
(単位:円)

科 目	当年度
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
特定資産運用益	25,356
受取会費	158,609,240
事業収益	437,190,382
調査研究収益	243,976,634
受取助成金振替	2,000,000
受取寄付金	16,847,955
雑収益	13,384,997
経常収益計	872,034,564
(2) 経常費用	
管理費	40,613,114
事業費	844,807,820
経常費用計	885,420,934
評価損益等調整前当期経常増減額	△13,386,370
損益評価等計	0
当期経常増減額	△13,386,370

科 目	当年度
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益計	0
(2) 経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	△13,386,370
一般正味財産期首残高	444,184,698
一般正味財産期末残高	430,798,328
II 指定正味財産増減の部	
受取助成金等	0
受取寄付金	6,770,809
小児糖尿病基金	3,770,809
地域振興基金引当預金	3,000,000
調査研究収益	282,526,634
研究運用資金(寄附)	44,783,081
研究運用資金(受託)	237,743,553
一般正味財産への振替額	△249,447,842
当期指定正味財産増減額	39,849,601
指定正味財産期首残高	327,365,654
指定正味財産期末残高	367,215,255
III 正味財産期末残高	798,013,583

日本全国に広がるネットワーク

都道府県糖尿病協会一覧

北海道

北海道糖尿病協会
☎ 011-892-3522
栗原内科

東北

青森県糖尿病協会
☎ 0172-39-5062
弘前大学大学院医学研究科
内分泌代謝内科学講座

秋田県糖尿病協会

☎ 018-884-6769
秋田大学大学院 医学系研究科
内分泌・代謝・老年内科学

岩手県糖尿病協会

☎ 019-662-1622
西松園内科医院

山形県糖尿病協会

☎ 023-622-7181
至誠堂総合病院 情報管理室

宮城県糖尿病協会

☎ 022-717-7611
東北大学加齢医学研究所プロジェクト棟5F
糖尿病代謝科

福島県糖尿病協会

☎ 024-925-1188
太田西ノ内病院 庶務課

関東甲信越

茨城県糖尿病協会
☎ 029-353-2800
医療法人健清会
那珂記念クリニック

群馬県糖尿病協会

☎ 027-220-7111 (内 8121)
群馬大学医学部附属病院
内分泌糖尿病内科

栃木県糖尿病協会

☎ 0282-87-2150
獨協医科大学病院 内分泌代謝内科

東京都糖尿病協会

☎ 03-6892-2962
(月・火・木・金/9時30分~17時)
東京都糖尿病協会事務局

千葉県糖尿病協会

☎ 0436-62-4511
井上記念病院 栄養課

埼玉県糖尿病協会

☎ 048-681-0526
自治医科大学附属さいたま医療センター

神奈川県糖尿病協会

☎ 044-233-5521
川崎市立川崎病院 糖尿病内科

山梨県糖尿病協会

☎ 055-273-9602
山梨大学医学部 第三内科

長野県糖尿病協会

☎ 0263-39-7060
米沢 光夫 様方

新潟県糖尿病協会

☎ 025-368-9026
新潟大学歯学部総合病院
血液・内分泌・代謝内科医局

中部

静岡県糖尿病協会

☎ 054-247-6134
静岡県立総合病院 栄養管理室

愛知県糖尿病協会

☎ 0561-63-1682
愛知医科大学医学部内科学講座
糖尿病内科

三重県糖尿病協会

☎ 059-331-2000
JCHO 四日市羽津医療センター

岐阜県糖尿病協会

☎ 058-230-6378
岐阜大学病院 糖尿病代謝内科

富山県糖尿病協会

☎ 076-433-8843
富山赤十字病院 医療社会事業部

石川県糖尿病協会

☎ 0761-21-0965
早戸 武志 様方

福井県糖尿病協会

☎ 0776-24-2410
医療法人初生会 福井中央クリニック 内科

近畿

滋賀県糖尿病協会

☎ 0749-22-6050
彦根市立病院 栄養科・栄養治療室

京都府糖尿病協会

☎ 070-5267-1929
京都府立医科大学附属病院
内分泌・免疫内科

大阪府糖尿病協会

☎ 072-366-0221 (内 3124)
近畿大学医学部内分泌・代謝・糖尿病
内科

和歌山県糖尿病協会

☎ 073-445-9436
和歌山県立医科大学附属病院
第1 内科医局

奈良県糖尿病協会

☎ 0743-63-5611
天理よろづ相談所病院 世話部

兵庫県糖尿病協会

☎ 078-382-5868
神戸大学大学院 医学研究科内科学講座
糖尿病・内分泌内科学部門

中国・四国

岡山県糖尿病協会

☎ 090-9981-7700
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
腎・免疫・内分泌代謝内科学教室

広島県糖尿病協会

☎ 082-257-5198
広島大学病院 分子内科学
内分泌・糖尿病内科

鳥取県糖尿病協会

☎ 0859-24-1151
住吉内科眼科クリニック

島根県糖尿病協会

☎ 0852-24-2111
松江赤十字病院 生活指導室

山口県糖尿病協会

☎ 0836-22-2251
山口大学医学部 第三内科

香川県糖尿病協会

☎ 0875-52-3800
よないクリニック

徳島県糖尿病協会

☎ 088-633-7587
徳島大学先端酵素学研究所
糖尿病臨床・研究開発センター

高知県糖尿病協会

☎ 088-880-2343
高知大学医学部
内分泌代謝・腎臓内科学 (第二内科)

愛媛県糖尿病協会

☎ 080-5667-2786
愛媛大学大学院医学系研究科
糖尿病内科

九州

福岡県糖尿病協会

☎ 092-631-0656
九州大学医学部 病態機能内科学
(第2内科) 糖尿病研究室

大分県糖尿病協会

☎ 097-586-5089
大分大学医学部 看護学科

佐賀県糖尿病協会

☎ 0952-34-2546
佐賀大学医学部
看護学科棟4F 5410室

長崎県糖尿病協会

☎ 095-819-7261
長崎大学病院
内分泌代謝内科 (第一内科)

熊本県糖尿病協会

☎ 096-365-5414
熊本県総合保健センター
管理棟3階

宮崎県糖尿病協会

☎ 0985-22-8015
平和台病院1階

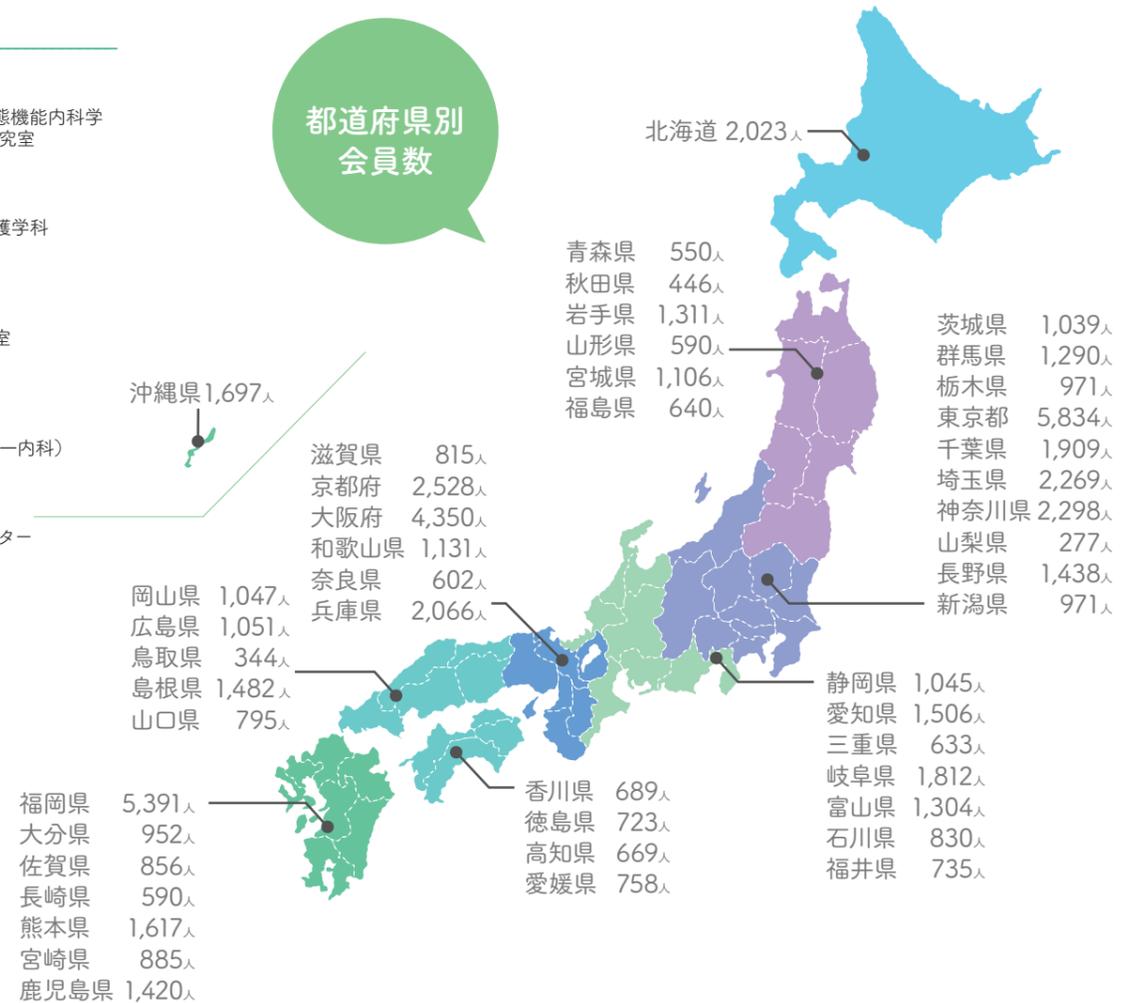
鹿児島県糖尿病協会

☎ 099-256-1218
鹿児島栄養会館

沖縄県糖尿病協会

☎ 098-886-6955
医療法人陽心会

都道府県別 会員数



Pick up! 全国の活動レポート

宮城

2011年の東日本大震災で1万人を超える尊い命が犠牲になりましたが、県内の友の会は一致団結して震災前とかわらない勢いでウォークラリー・市民講座・1型糖尿病の会などの活動を毎年元気いっぱいこなしています。

栃木

栃木県糖尿病協会には、19の友の会と約900人の会員がいます。糖尿病週間では宇都宮タワーや足利学校でのブルーライトアップ、無料相談会を行っております。2017年より『CDE-Tochigi』を発足し、272名のCDELが認定されました。糖尿病教育の正しい知識と技術の啓発を図り、熟達した療養指導のできるスタッフを養成し、栃木県での糖尿病予防、糖尿病合併症阻止に向け、今後も精力的に取り組んでいきます。

富山

富山県糖尿病協会では、毎年総会と、全国糖尿病週間に合わせて28分会の親睦を深める会員交流会を開催しています。各会では、医師の糖尿病に関する講演会、管理栄養士の食事指導、申し込み不要のアトラクションなどをご用意しています。また富山県では、平成30年から『とやま糖尿病療養指導士』の認定制度も始まりました。なるべく間口を大きくして、幅広い層に糖尿病に関する正しい知識の普及啓発活動を行っています。

大阪

大阪糖尿病協会は、昭和36年糖尿病の啓発、会員相互の親睦を目的に、患者さんを中心に据えた形で設立されました。今では109施設(2700人)を擁し、1型患者さんが多いのも特徴です。今のスタッフ部会にあたる、医師、栄養士、臨床検査技師、看護師がそれぞれ独立したチームを作り、今でも患者さんファーストの様々な活動を盛り上げてきています。さらに、世界糖尿病デーでの活動などを通じて、広く府民にたいしての啓発活動にチーム一丸で取り組んでいます。

徳島

阿波踊りで有名な徳島では、毎年阿波おどり会館がブルーにライトアップされます。徳島県糖尿病協会は26の友の会と711名の会員で構成されています。成人1型糖尿病の“Team Diabetes Tokushima”“AWADM.com”、小児サマーキャンプ、患者会、市民公開講座など様々なイベントを行っています。依然糖尿病による死亡率が高い徳島は、医師会と連携しながら、会の活性化と患者啓発活動、療養指導のレベルアップにこれからも頑張っています。

鹿児島

鹿児島県糖尿病協会は、(公社)日本糖尿病協会と連携し、広く糖尿病に関する知識の普及啓発を行い、県民の健康増進に寄与すると共に、会員の資質向上と交流を図ることを目的として活動しています。毎年、歩いて学ぶ糖尿病ウォークラリーを始め糖尿病スタッフセミナー・小児糖尿病サマーキャンプ・糖尿病デー・全国糖尿病週間の活動など、多くの行事を展開すると共に、行政や医療団体と共催で健康まつりや糖尿病予防講演会などへ協力しています。

日本糖尿病協会の会員

日本糖尿病協会には、糖尿病に関心のある方ならどなたでも入会することができます。患者さんやご家族、患者さんを支援する医療者や企業の皆さんが、日本糖尿病協会という輪の中で同じ立場で活動しています。



友の会
会員

糖尿病診療を行う医療機関に設けられている「糖尿病友の会」に入会すると、会員として協会誌「糖尿病ライフさかえ」の購読と、友の会での交流活動に参加できます。友の会は、全国の約1,600の医療機関に設置されています。



本部
会員

日本糖尿病協会本部に入会し、協会誌「糖尿病ライフさかえ」を購読して、糖尿病の知識を深めることを目的とする会員です。全国どこからでも入会が可能で、若い世代や医療者が多く参加しています。



上記以外にも、日本糖尿病協会の目的に賛同して、活動をご支援いただく企業・団体や個人を対象とする賛助会員制度もあります。

2017年度 賛助会員

アークレイ マーケティング(株)	サンスター(株)	日本コカ・コーラ(株)
(株)浅田飴	(株)三和化学研究所	日本ベーリンガーインゲルハイム(株)
アステラス製薬(株)	ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)	日本ベクトン・ディッキンソン(株)
アストラゼネカ(株)	第一三共(株)	日本メドトロニック(株)
(株)HプラスBライフサイエンス	大正製薬(株)	ノバルティス ファーマ(株)
MSD(株)	大日本住友製薬(株)	ノボ ノルディスク ファーマ(株)
大塚食品(株)	(株)竹内精美堂	(株)ファンデリー
小野薬品工業(株)	田辺三菱製薬(株)	富士フィルムファーマ
協和発酵キリン(株)	中外製薬(株)	(株)ヤクルト本社
興和創薬(株)	ティーベック(株)	ロシュDC ジャパン(株)
(株)コスミック コーポレーション	テルモ(株)	
サノフィ(株)	(有)ニック	
サラヤ(株)	ニプロ(株)	



日本糖尿病協会は「子どもの糖尿病対策」と「アジアの糖尿病対策」を応援して下さる「サポーター」を募集しています。あなたの周りの人にサポーターのことをお伝えください。ひとりひとりの小さな支援が、大きな糖尿病対策につながります。

アジア地域での糖尿病による足切断は極めて深刻です！

アジアの糖尿病対策 アジア糖尿病足病変プロジェクト

- 発展途上国にフットケアセンターを設置
- AASD（アジア糖尿病学会）による治療データベース構築
- 医療スタッフの教育の実施
- 2012年2月～ フットケアに関する国際シンポジウム開催



1型糖尿病の子どもたちの教育と生活指導のために…

子どもの糖尿病対策 小児糖尿病サマーキャンプ

- 日本で最初のキャンプ「つぼみの会」
- 1963年8月 千葉県勝山海岸で開催
7泊8日の日程で、8人の患児（6～12歳）が参加しました。
- 現在では…全国50箇所で開催
約1200人のキャンパー（患児）と約5000人の医療スタッフ（ボランティア）が参加しています。



サポーター募集中!!

サポーター会費は500円（5年間分）

会費500円（5年間分）で、お一人様何口でもお申込みいただけます。

- ご登録に必要なもの：①お名前 ②メールアドレス ③会費
- ご登録後の特典：①サポーター証 ②日本糖尿病協会からの健康情報メール配信

※「友の会」正会員の各種特典（月刊「糖尿病ライフさかえ」無料購読、「DM Ensemble」購読割引）の適用はございません。また、地域糖尿病療養指導士取得の要件にある日本糖尿病協会会員にも該当いたしません。あらかじめご了承ください。

会費は、小児糖尿病サマーキャンプとアジア地域の糖尿病対策支援に役立てられます。

詳しくは、日本糖尿病協会のホームページでご案内しています。

2018(平成30)年度 日本糖尿病協会賞受賞者

日本糖尿病協会では、毎年、協会活動を通じて日本の糖尿病対策に貢献された方々を表彰しています。
2018年度の日本糖尿病協会賞受賞者は、以下のみなさまとなります。
受賞者の功績については、ホームページでご紹介いたしますので、そちらもぜひご覧ください。

アレテウス賞

日本の糖尿病対策に多大な役割を果たすとともに、日本糖尿病協会事業の推進に顕著な貢献がある患者、または国内外における糖尿病医療への学術的貢献が顕著であり、かつ教育や患者会活動を通じた糖尿病治療や療養指導への貢献が著しい医療従事者へ贈られます。

武田 純氏
岐阜大学大学院医学系研究科
内分泌代謝病態学 教授
(受賞理由)
日糖協の療養指導事業全般への貢献

パラメデス賞

糖尿病対策の公益活動を積極的に推進し、かつ教育や患者会活動を通じて社会への貢献が著しい患者へ贈られます。

中園 徳斗士氏
福岡県糖尿病協会 会長
(受賞理由)
公益社団法人としての組織強化への貢献

ウィリアム・カレン賞

原則50歳未満の比較的若手で日本糖尿病協会事業を積極的に推進している医療従事者に贈られます。

小内 裕氏
小内医院 副院長
(受賞理由)
糖尿病啓発教育活動への貢献

功労賞

日本糖尿病協会事業の推進、地域組織の強化、会員増強など長年にわたり多大な功績を残した患者・医療従事者へ贈られます。



矢野 春治氏
北海道糖尿病協会
元事務局長
(受賞理由)
北海道糖尿病協会の活性化と協会活動への貢献

立川俱子賞

日本糖尿病協会の会員として、日糖協本部または都道府県糖尿病協会において糖尿病の啓発、療養支援、友の会活動などにしなやかな力を発揮する女性に贈られます。



桑 まり子氏
栃木県栄養士会
(受賞理由)
栃木県糖尿病協会の諸活動への貢献

●療養指導士賞受賞者●

看護師部門
大倉 瑞代氏
千葉大学医学部附属病院

管理栄養士部門
中尾 矢央子氏
上ノ町・加治屋クリニック

薬剤師部門
佐竹 正子氏
薬局恵比寿ファーマシー

臨床検査技師部門
山下 己紀子氏
なかじま糖尿病内科

理学療法士部門
天川 淑宏氏
東京医科大学
八王子医療センター

●小児糖尿病関連賞受賞者●

ガリクソン賞

小児期発症の1型糖尿病の患者さんで、一般社会、スポーツ、文化、科学、芸術などで活躍する方、キャンプスタッフとしての貢献の著しい方に贈られます。

中畑 正子氏
青森県立中央病院 看護師
(東北ブロック)

小島 基靖氏
済生会唐津病院 医師
(九州ブロック)

小児糖尿病功労賞

サマーキャンプの運営、小児糖尿病の医療等に対し、原則として10年以上貢献のあった方に贈られます。

西村 一弘氏
駒沢女子大学
人間健康学部健康栄養学科
教授
(関東甲信越ブロック)

浦上 達彦氏
日本大学医学部
小児科学教室 教授
(関東甲信越ブロック)

青野 繁雄氏
寺田町こども診療所 院長
(近畿ブロック)

**ライオンズクラブ国際協会
335D地区 3R-1Z**
チェアパーソン
櫻井 光男氏
(近畿ブロック)

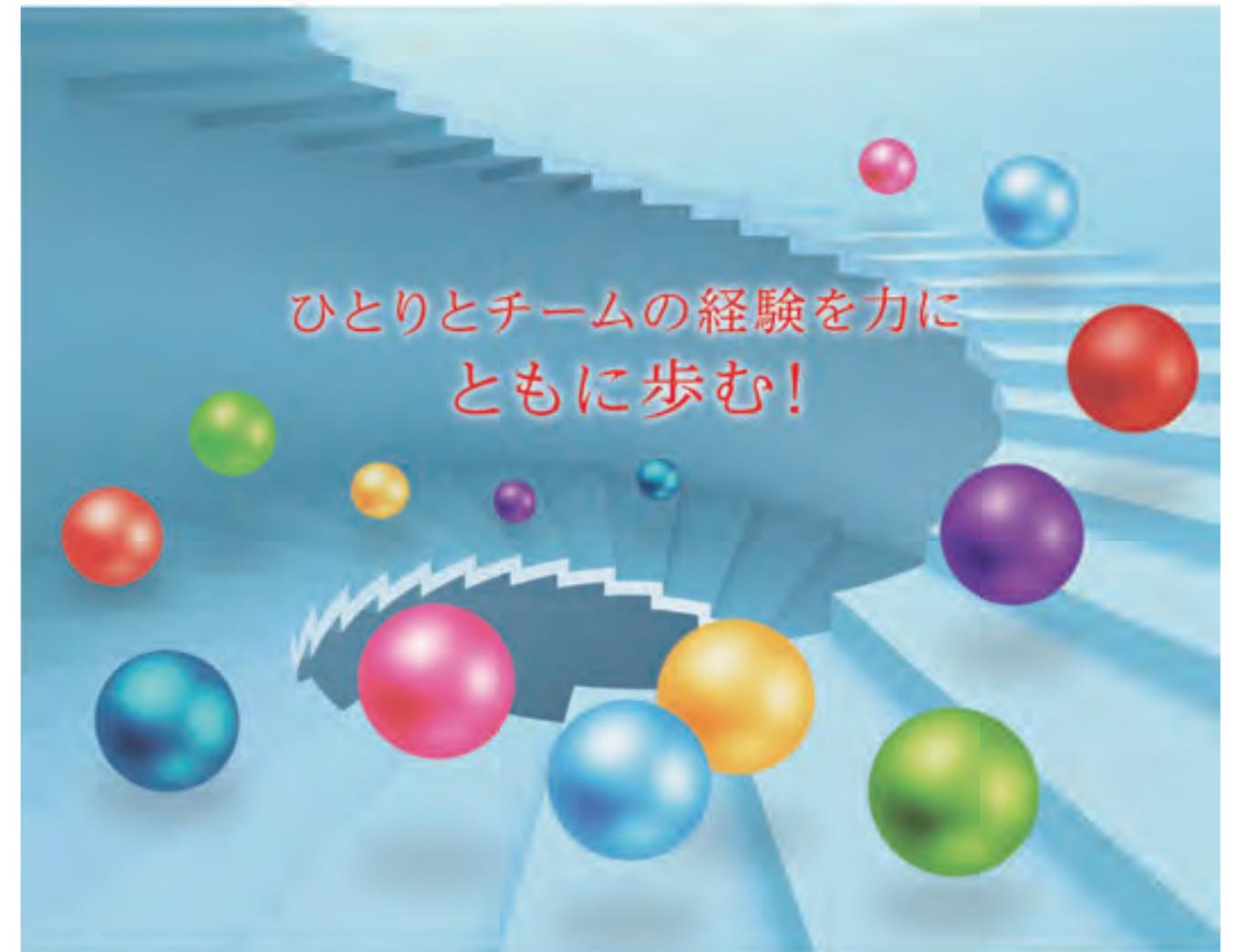
藤田 泰宏氏
友の会「大山家族」
(中国・四国ブロック)

**中村学園大学
栄養科学部
栄養科学科**
栄養科学科主任 教授
今井 克己氏
(九州ブロック)



第6回

日本糖尿病療養指導 学術集会



会期：平成30年7月28日(土)
29日(日)

会場：国立京都国際会館
会長：中村 慶子 (横浜国立大学大学院 看護学研究科)

事前参加登録制

お申込みは、日本糖尿病協会のホームページから
www.nittokyo.or.jp

主催/公益社団法人日本糖尿病協会

マールくんの自己管理応援シールができました



HbA1cの目標値や治療薬の注意点をマールくんがお知らせする自己管理応援シール。医療機関で、患者さんにあわせて糖尿病連携手帳に貼ってご利用ください。



ダウンロードは、協会ホームページから。

<https://www.nittokyo.or.jp/>

HOME » 患者さんへ » 療養グッズのご案内 » 自己管理応援シールの作り方

**ゴールを目指す
気持ちは一つ
糖尿病に立ち向かいます**

私たちは、薬物治療にとどまらず、食事療法や運動療法など、糖尿病治療全般に関わる情報提供を、積極的に行ってきました。今後もさらに、多角的なアプローチで、ソリューションを提供いたします。糖尿病領域における真のパートナーを目指して——これまでも、これからも、MSDはチャレンジしつづけます。

MSD Diabetes Solutions™

MSD株式会社
〒102-8667 東京都千代田区九段北1-13-12 北の丸スクエア
<http://www.msd.co.jp/>

2018年4月作成
JAN18AD044-0423

arKray

夢をかなえよう、共に。

夢と勇気を与えることで、1型糖尿病の子どもたちを応援している岩田選手。私たちも、岩田選手を応援しています。

岩田選手×アークレイ
IWATA PROJECT 21
詳しくは、Facebook、公式サイトまで

岩田 アークレイ 検索

アークレイ株式会社

願いをこめた新薬を、世界のあなたに届けたい。

「病気と苦痛に対する人間の闘いのために」
わたしたちは、新薬の開発に挑み続けます。
待ち望まれるくすりを、一日でも早くお届けするために。

ONO 小野薬品工業株式会社



© Cultura RM Exclusive / Edwin Jimenez / Getty Images

Empowering Life

サノフィは、ヘルスジャーニー・パートナーとして、私たちが必要とする人々に寄り添い支えます。

サノフィ株式会社

〒163-1488 東京都新宿区西新宿三丁目 20 番 2 号 東京オペラシティタワー www.sanofi.co.jp



Value through Innovation



人々のより良い健康のために

ベーリンガーインゲルハイムは、株式を公開しない企業形態の特色を生かし、長期的な視点で、医薬品の研究開発、製造、販売を中心に事業を世界に展開している製薬企業です。

日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社

本社 / 〒141-6017 東京都品川区大崎2-1-1 ThinkPark Tower
<https://www.boehringer-ingenheim.jp>



認知症。ずっと、もっと、自分らしく。



認知症治療は早期発見がポイントです。
 認知症かな?と思ったら、

いっしょがいいね 検索

スマートフォンでもご覧いただけます



 **第一三共株式会社**



ノボ ノルディスクは変革を推進し、
 糖尿病やその他の深刻な慢性疾患の克服に取り組んでいます。



ノボ ノルディスクは世界に展開するヘルスケア企業として、90年以上にわたり糖尿病ケアの確信をリードしてきました。この受け継がれた伝統によって得た経験と可能性により私たちは、血友病や成長障害、そして肥満など、糖尿病以外の深刻な慢性疾患を抱える方々もサポートしています。

ノボ ノルディスク ファーマ株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-1-1 明治安田生命ビル
 電話(03)6266-1000(代表) FAX(03)6266-1800
www.novonordisk.co.jp
 JP/GEN/0418/0014(2018年4月作成)





Better Health, Brighter Future



タケダから、世界中の人々へ。
より健やかで輝かしい明日を。

一人でも多くの人に、かけがえのない人生をより健やかに過ごしてほしい。タケダは、そんな想いのもと、1781年の創業以来、革新的な医薬品の創出を通じて社会とともに歩み続けてきました。

私たちは今、世界のさまざまな国や地域で、予防から治療・治癒にわたる多様な医療ニーズと向き合っています。その一つひとつに答えていくことが、私たちの新たな使命。よりよい医薬品を待ち望んでいる人々に、少しでも早くお届けする。それが、いつまでも変わらない私たちの信念。

世界中の英知を集めて、タケダはこれからも全力で、医療の未来を切り拓いていきます。

武田薬品工業株式会社

www.takeda.com/jp

受け継がれた遺伝子が、
世界のヘルスケアを変えていく。

PHC

Healthcare with Precision

4月1日、ヘルスケア市場を変革する製品をつぎつぎと生み出してきたパナソニックヘルスケアホールディングス株式会社は、PHCホールディングス株式会社に社名変更しました。あたらしい約束は、“Healthcare with Precision”。医療の現場に私たちが受け継いだ「Precision = 精緻な技術」を使った機器・サービスを提供し、医師の診断をサポートすることで、健康を願うすべての人々を笑顔にしたいという想いを込めています。これからも医療機器、ヘルスケアIT、ライフサイエンスの3つの事業をコアに、付加価値の高い製品・サービスを提供し続けてまいります。どうぞご期待ください。

※1.当時、三洋電機株式会社 ※2.電気化学式自動吸引型血糖センサとして

1966
薬用保冷庫
(日本初※1)

1972
レセプトコンピューター
(日本初※1)

1991
血糖値測定システム
(世界初※2)



医療機器

ライフサイエンス

ヘルスケアIT

詳細は



パナソニックヘルスケアホールディングス株式会社は、

PHCホールディングス株式会社へ

公益社団法人 日本糖尿病協会

〒102-0083 東京都千代田区麹町 2-2-4 麹町セントラルビル8F

TEL:03-3514-1721 FAX:03-3514-1725

日本糖尿病協会について、詳しくはホームページをご覧ください。
「友の会」や「サポーター会員」についてもご案内しています。

<https://www.nittokyo.or.jp/>